

施設管理にバイオ応用

NTT-IPD

汚水槽に投入するだけ

独自の環境商材を販売

オフィスの設計から保守管理までをワンストップで提供する、トータル・オフイス・ソリューション企業のNTTインテリジェント企画開発(NTT-IPD、真木英男社長)は、オフィス事業まわりの環境ビジネスにも注力しているが、その一環として、先端のバイオ技術を活用して汚泥や産廃を大幅に削減する画期的な「環境商材」を取り扱うことにした。米国で高い評価を得ているバイオ商品を用いた施設管理分野で独占提供しているベンチャー企業のKENアソシエイト(栃木県那須塩原市、大高宣光社長)と販売代理店契約を締結したことで実現した。この分野で遅れている、わが国の法人市場のバイオ応用を積極的に啓発、ビジネスモデルを確立していく。



NTT-IPDが扱うバイオ商品の数々

今回の「環境商材」は、産廃費用の削減を図るとともに清潔で安全な設備環境を維持できる「液体・固体バイオ」、散布者や周囲の人達にも無害な「エアゾール」および油吸着土壌改良剤などの高品質のバイオ製品。

今回の「環境商材」は、液体と固体2種あつて、大規模ビルの設備や一般企業のオフィスのビル設備の地下にある汚水槽や雑排水槽等の用途に応じた、液体と固体を使い分け、投入したり置いたりするだけで、汚泥や汚水をほぼ完全に分解するスケレモノ。

「バイオ」は、液体と固体の2種あつて、大規模ビルの設備や一般企業のオフィスのビル設備の地下にある汚水槽や雑排水槽等の用途に応じた、液体と固体を使い分け、投入したり置いたりするだけで、汚泥や汚水をほぼ完全に分解するスケレモノ。

「バイオ」は、液体と固体の2種あつて、大規模ビルの設備や一般企業のオフィスのビル設備の地下にある汚水槽や雑排水槽等の用途に応じた、液体と固体を使い分け、投入したり置いたりするだけで、汚泥や汚水をほぼ完全に分解するスケレモノ。

は定期的にかかるもの、これらの清掃作業を不要とするため、大幅なコスト削減につながるという。

ちなみに、データセンターや通信機械室の空調機からの漏水は、事故につながるおそれがある被害額となるため、定期的な清掃は必須だが、今回、取り扱う商品のバイオ製剤(ADC)は、冷却フィンとドレンパンの排水系統に水に溶かして吹きつけるだけで、詰まり発生の原因となるバクテリアの繁殖を抑え、漏水事故を未然に防げる。金属を腐食させる成分や人体に影響を与える成分は一切使用していないという。

このほかにも、「バイオ商品」として工事現場やオフィス等の床面に流れた油処理を行う「油吸着土壌改良剤」も取り扱う。「オイ

ルゲーター」という商品名のこの吸着材は、原料に天然セルロース100%を使用しており、地球にやさしい商品。油吸着材は、各方面に様々な商品が出回っているが、この吸着剤は単に油を吸着させるだけでなく、4〜5カ月かけて油そのものを分解するため、産廃物を発生させないのが特長。油で汚染されたばかりの土壌に雨が降った場合でも周辺に染み出すことはないという。

これまでもバイオによる汚染分解は、数百万から数千万円の装置をシステム購入するのが通常だったが、今回のバイオ商品は、どれも特別な装置を必要とせず、投入するだけで済む。手軽に作業だけで済み、手軽に扱えるのが最大の利点だ。また、使用しているバクテリアは、米国菌株保存機関であるATCC第1種に属する安全菌であり、民間機関での安全検証も実施済みであるという。

日本のバイオ研究レベルは世界最先端をいっているものの、バイオに対する偏見もあり企業における施設管理面でのバイオ応用は、遅れていたのが現状。NTTグループでは大手企業などへ徐々に浸透しつつあるが、今回の商品は、「これまで日本にはなかった画期的商品(大高社長)と効能に自信を示しており、NTT-IPDは、今後、グループ企業をはじめ、環境保護に積極的な企業を中心に普及させていきたいと意欲を見せている。